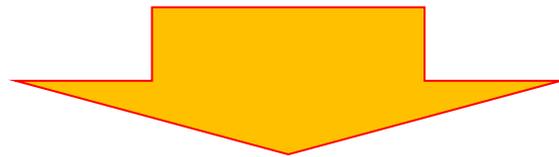


減災のための目標(案)について

中海における水害の特徴

- ① 台風の襲来に伴い、洪水と潮位の高い状況が同時に生じた場合には、境水道から日本海への洪水流出が阻害され、湖水位が高い状態が長期間にわたり継続し、浸水時間が長期化する恐れがある。
- ② 一方で、洪水による中海の水位上昇は緩やかであり、避難準備を行う時間はある。
- ③ 境水道を通じて日本海と接する中海は日本海の潮位変動の影響を受けやすく、高潮による被災が懸念されるが、台風の接近等に伴う高潮においては、水位上昇が予測しづらい。
- ④ 中海沿岸の低平地では、高潮による水位上昇に伴い、中海に流入する河川等の排水が困難になり、内水被害が発生しやすい。
○H15年9月高潮では、内水被害も発生。
- ⑤ 東風と西風が卓越する傾向にあり、強風にともなう越波浸水の恐れがある。



氾濫特性を踏まえた、適切な目標と取組方針の設定が重要

減災のための目標(案)

●5年間で達成すべき目標

斐伊川治水3点セットの早期完成に向け事業推進を図りつつ、大規模水害に対し、中海の氾濫特性を踏まえたハード・ソフト対策を推進し、「**住民の防災意識の向上**」、「**浸水被害の最小化**」を目指す。

- ※大規模水害 …… 想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水や高潮氾濫による被害
- ※防災意識の向上 …… 洪水のみならず高潮や内水への危機察知能力を向上させる
- ※浸水被害の最小化 …… 大規模水害による浸水被害を軽減し、早期に生活を再開させる

■上記達成に向けた3本柱の取組

1. 迫り来る危機を認識した的確な**避難行動のための取組**
2. 中海の浸水特性に応じた効果的な**水防活動及び施設運用の取組**
3. 予測しづらい**高潮への対応能力を高める取組**

1. 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～情報伝達、避難計画等に関する事項～

ハザードマップやタイムラインの作成

■ 想定最大規模降雨による洪水の浸水想定を踏まえたタイムラインやハザードマップの作成に取り組む。

公表資料＜洪水浸水想定区域図(想定最大規模降雨)＞



1. 迫り来る危機を認識した的確な避難行動のための取組

～情報伝達、避難計画等に関する事項～

河川のリアルタイム映像の提供環境の整備

■ 出水の規模が大きくなると尾原ダムによる洪水調節や斐伊川放水路からの分流操作を行う。こうした施設運用は沿川住民に対し迫り来る危機を認識させるのに有効であり、リアルタイムの映像情報を配信することで住民の迅速な避難が可能となる。

映像情報を米子市、境港市、松江市、安来市やテレビ放送等で配信するよう検討を行う。

避難の参考となるダムや河川、中海の状況(イメージ)



例: 尾原ダムの洪水調節



例: 斐伊川放水路の分流



例: 高水敷ゴルフ場の冠水



例: 中海の水位上昇

雨の降り始め

0h

6h後

危険度

8h後

12h後

24h後

※時間軸はイメージ

～平時から住民等への周知・教育に関する事項～

防災教育や防災知識の普及

■ 出前講座も活用しつつ、小中学校などと連携した水害教育の拡充について検討を行う。

2. 中海の浸水特性に応じた効果的な水防活動及び施設運用の取組

～水防活動の効率化及び水防体制の強化に関する事項～

水防団への連絡体制の再確認

■水防団への連絡体制について、再度確認を行い、伝達訓練を実施する。

水防団や地域住民が参加した重要水防箇所等の合同点検

■重要水防箇所、リスクの高い箇所について、河川管理者、水防団、地域住民と共同で点検を行い、情報の共有を図る。

松江市合同点検(平成27年6月17日)



境港市合同点検(平成27年6月18日)



2. 中海の浸水特性に応じた効果的な水防活動及び施設運用の取組

～氾濫水の排水、施設運用等に関する取組～

大規模水害を想定した排水計画(案)の作成

- 過去の状況から想定される浸水箇所について、排水ポンプ車の設置位置や運搬ルートの確認等の総合的な排水計画を作成する。

例：排水ポンプ車設営訓練状況



例：排水ポンプ車運転状況
(平成23年9月：中海・馬潟港付近)



2. 中海の浸水特性に応じた効果的な水防活動及び施設運用の取組

～施設運用等に関する取組～

樋門・水門・陸閘門操作の確実な実施

- 樋門・水門・陸閘門の操作説明会の開催
- 樋門・水門・陸閘門への参集のタイミング、操作方法の周知・徹底

例. 中海 彦名1号排水門の操作現地説明



例. 中海 排水門等 操作説明会場



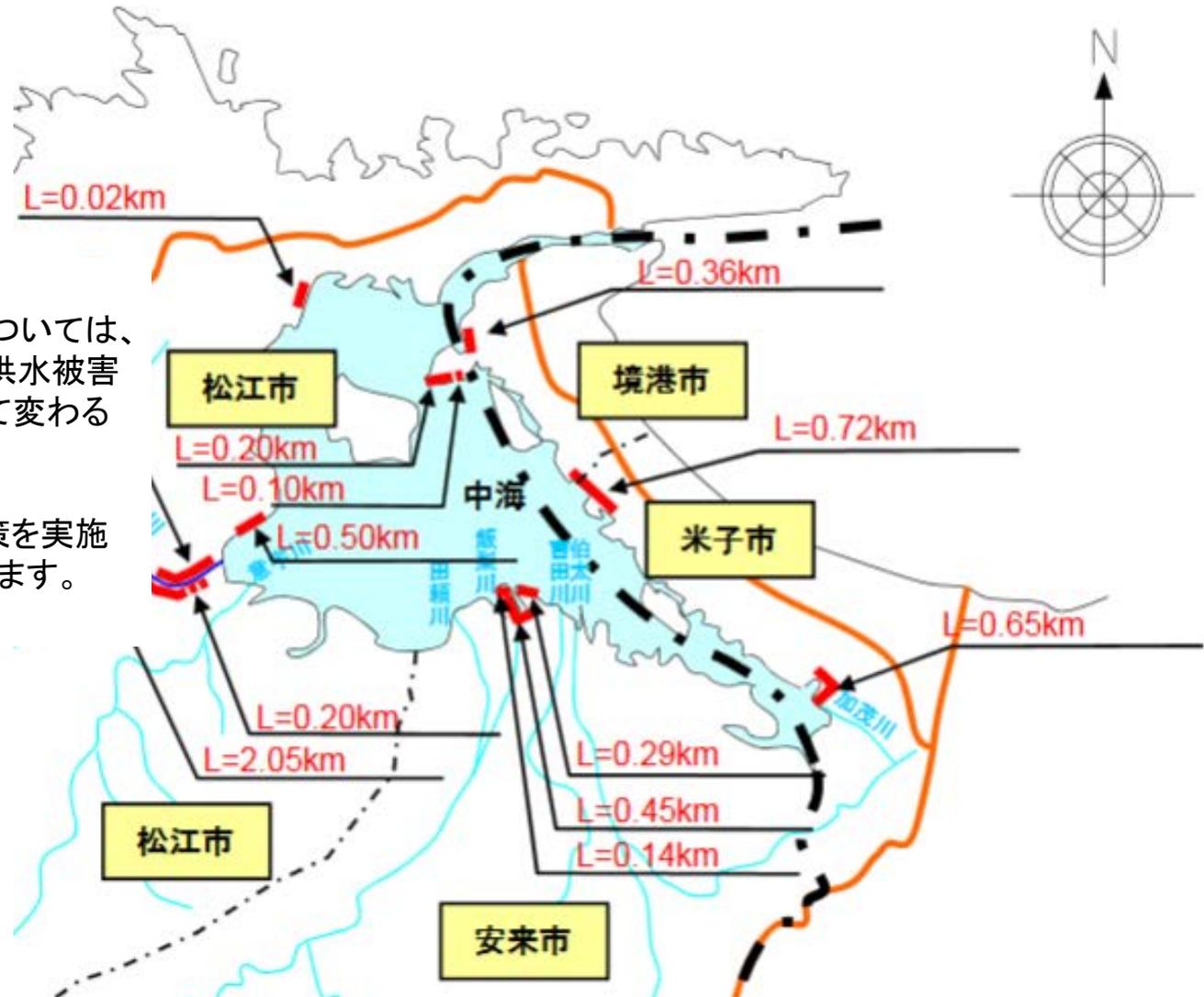
3. 予測しづらい高潮への対応能力を高める取組

高潮に対するハード対策

- 短期整備箇所の湖岸堤整備を推進し、短中期整備箇所についても事業進捗を図る。

※ 具体の実施箇所等については、今後の調査検討や、洪水被害の発生状況等によって変わる場合があります。

※ 今後概ね5年間で対策を実施する区間を記載しています。



3. 予測しづらい高潮への対応能力を高める取組

～避難計画等に関する事項～

想定し得る最大規模の高潮による浸水想定区域図の作成

- 想定最大規模高潮による浸水想定区域図を作成
- それを踏まえたハザードマップの作成

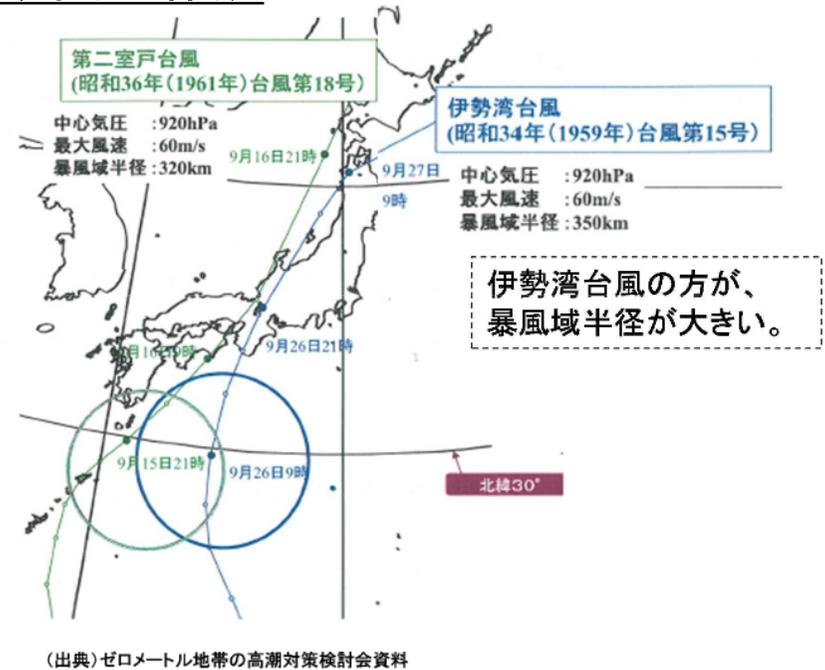
<想定する台風>

想定する台風の中心気圧は、室戸台風を基本とし、既往実績に応じ対象とする海岸における緯度を考慮して台風の中心気圧を増減させる。

最大旋衡風速半径、移動速度については、伊勢湾台風を基本とする。

各海岸で潮位偏差が最大となるよう、当該地域等で大きな潮位偏差を生じた複数の台風の経路を平行移動させ、想定する台風の経路を設定することとする。

※高潮浸水想定区域図作成の手引きVer.1.00、平成27年7月



- 伊勢湾台風の移動速度
上陸前約59km/h～上陸後83km/h
- 第二室戸台風の移動速度
上陸時約40km/h～敦賀付近約50km/h*

*: 気象庁の台風データから作成

伊勢湾台風の方が、速度が速い。

～避難計画及び予測・予報等に関する事項～

高潮の予測・予報手法の検討

- 想定しうる最大規模の高潮検討に用いたモデルを活用し、高潮の予測・予報手法を検討